

宇治橋

橋裂子規前後山客愁況又水潺湲千聲一度洛人耳月落欄干三十間

〔天粟晝零記〕明應四年八月八日五十鈴御裳濯之兩橋并人家五十餘宇流失

〔内宮物忌年代記〕明應四乙卯八月八日大風洪水先代未聞事也中略風宮橋并大橋落ル

〔神廷紀年後五〕天文十四年此年宇治大橋成

〔神廷紀年正五〕永祿二年二月十九日辛酉宇治岡田火燒大橋館

〔松木氏年代記〕天正十九辛卯關白殿秀吉豊臣ヨリ内宮宇治橋并不動堂建

〔伊勢大神宮神異記上〕慶安年中の事なるに内宮の御裳濯川の大橋を渡得ぬ道者ありて歸らんとすれば平生のごとくにして又渡らんとすれば心みだれ目くらみける間宮中へは不參して

其より下向しけるとぞいかなる故か侍けん人こそまじ侍らね心中にかくす罪ありて神明御納受なき人なるべしか様の事はむがしより幾度も有しと所の人は物がたりき

〔十三朝紀聞後二〕萬治三年五月天下大水流伊勢宇治橋

〔文政回祿日記後三〕口上

一昨十九日夜市中ヨリ出火仕宮中江燒移候ニ付早速一禰宜禰宜中其外追々馳著相勤候へ共

風烈數段々燒廣ガリ左ノ通燒失仕候略中

一字治大橋同水除柱同大鳥居二基并橋姫社

右之通ニ御座候

文政十三寅年後三月廿一日

禰宜中

内宮一禰宜

〔遊囊贖記七〕五十鈴川ハ御裳濯川ト共ニ宇治川ノ異名ナリサレバ此川ニ掛タルヲ宇治橋トイ